

寅年
やはば

今年が寅年。かつて寅年の矢巾町で起こった出来事を集めてみました。

昭和49年(1974年)



ドイツとの柔道交流を実施

日独スポーツ少年団の同時交流が行われ、柔道班17人が来町。徳田小学校で町内高校生との稽古が行われました。

昭和61年(1986年)



町文化振興基金が設立

町の芸術文化活動を支える仕組みとして基金が誕生。町の関係団体の代表者ら70人による設立総会が行われました。

平成10年(1998年)



矢幅駅開業100周年

明治31年に創業した矢幅駅が100周年を迎え、当時の駅ホームにSL 銀河ドリーム号が登場し、注目を集めました。

平成22年(2010年)



矢幅駅前開発、本着工

現在の矢幅駅前を形作る開発がこの年に本着工しました。写真は開発前、駅前から東向きに撮影したものです。

新春アルバム・プレイバック2021

未来への鼓動

令和3年はオリンピックイヤーとなり、コロナ禍の影響が続きながらも、町を沸かせる話題が多い年となりました。1年を振り返り、代表的な話題の一部を紹介します。



水本圭治さんが東京五輪に出場

本町出身の水本圭治さんが、東京オリンピックカヌースプリント競技に出場。町初のオリンピックの誕生となりました。

大会後、水本さんの偉業を記念し、町民総合体育館前の芝生広場に記念植樹を実施。水本さんからは町に対して、実際にレースで着用したユニフォームやゼッケン、パドルなどが寄贈されました(写真)。これらの記念品は現在、同体育館内に展示していますので、ぜひご覧ください。

東京五輪に向けた聖火リレーが国内各地で行われ、本町でも岩手医科大学から矢幅駅前までの区間でランナーが力走しました。

本町関係者では平昌パラリンピック(平成30年)に出場した高橋幸平さん(アルペンスキー)、不来方高校出身の小網いつきさんが参加。沿道には多くの町民が駆けつけ、ランナーからランナーへと引き継がれ、ゴールへ向かう聖火を目に焼き付けました。



五輪聖火リレー 町内でもランナーが力走

7月に町と青南商事が連携し、町民センター内にリサイクルモア矢巾店を設置。ペットボトルや空き缶、段ボール、雑誌などの資源を24時間いつでも回収する施設で、回収に出した資源の重量によりクオカードなどと交換できるポイントが貯まります。

設置後、多くの町民の皆さんに利用されており、多くの資源が回収されています。町のごみ減量と資源の有効活用に向け、引き続きご協力をお願いします。



リサイクルモア設置 ごみ減量を推進



矢巾町長 高橋 昌造

あけましておめでとうございませう。町民の皆さまには、健やかなる新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

令和4年、本町は引き続きSDGs(持続可能な開発目標)に基づき、誰一人として取り残さないまちづくりを目指してまいります。そのためには、これまで取り組んできた手法「フューチャーデザイン」により、町が目指すべき未来の姿を明確にし、その実現のため、取り組むべき課題を一つずつ確実に解決してまいります。加えて、次世代にもSDGsの考え方を浸透させ、将来のまちづくりにつながるよう、教育現場においても未来を担う子どもたちの学びの機会を充実させてまいります。また、地域活性化では、西部地区の城内山やその頂上にある展望台を

新たな観光資源として活用します。さらに、宮沢賢治が愛した南昌山、町国民保養センターを中心とした温泉郷エリア、煙山ひまわりパークや町営キャンプ場など、観光拠点施設・資源を二帯的に運用し、観光プロモーションにより町内外から大勢が集うエリアを構築いたします。

東部地区の国指定史跡徳丹城は、令和2年度から5カ年計画での整備が進行中で、城内の東西道路の復元、地形の再現などを行っております。歴史的価値が非常に高いこの地を、来訪者の皆さまが歴史を身近に感じ、憩える場としてその魅力をさらに高めてまいります。

新型コロナウイルス感染症の影響はいまだ残る状況ですが、町として今後も、時勢に合わせた感染症対策や各種支援事業を実施し、現在の生活様式に合わせた事業、イベントの実施を模索してまいります。最後に、この一年が町民の皆さま一人ひとりとって輝かしい年となることをご祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。



矢巾町議会議員 藤原 由巳

町民の皆さま、あけましておめでとうございます。一昨年来のコロナ禍も収束の兆しが見えてきた中、希望に満ちた令和4年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、コロナが拡大する中、本町初のオリンピック選手、カヌースプリント競技に出場した水本選手が素晴らしい活躍の姿を見せられました。また、町内の小中学生および高校生の音楽とスポーツにおいても全国レベルの成績を残し、のど自慢が田園ホールで開催され、まさに音楽とスポーツのまち宣言をした矢巾町を全国に発信できた一年でもありました。

議会としても、町が積極的に取り組んできたコロナ対策関連予算を全議案可決決定し、町と一体となって対策を進めてきましたが、このコロ

ナ禍の中で町民との懇談会や所管事務調査など、議会の活動が一部できなかった1年でもありました。さて、迎えました本年は、早期のコロナ収束を願いつつ、この2年間で冷え切った町内経済の活性化に向けた対策と、新たな大企業の進出や、土地利用計画の見直しによる対応が求められます。

また、3月開催の北京パラリンピックに、高橋幸平選手が前回(平成30年・平昌パラリンピック)に引き続き出場し、大いに活躍することを切望します。

議会では町民の声を聴き、厳しい町財政の中ですが、農工商業者と生活弱者への支援対策を第一に、コロナ禍によりできなかった住民間の交流も図ってまいります。また、温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた対策を町と一体となって取り組んでまいります。

本年が、町民の皆さまにとって辛い多いことをご祈念いたしますとともに議会に対して更なるご指導をお願いいたします。年頭のあいさつといたします。

令和4年 元日

謹賀新年